

教育研究研修センターだより



通巻 No.293

令和6年9月18日（水）発行

子どもたちのために、大人が知恵を出し合い実践につなげる場に

岡山市教育研究研修センター
新センター整備担当課長 村尾 剛介



令和8年度末、岡山市は「高める」「創る」「応える」をコンセプトとする、新しい「岡山市教育センター（仮称）」を整備します。現在の教育研究研修センターは、研修室の数や広さ、ICT環境等、施設面が十分ではなく、教育DXの推進や若手教員の増加など、教職員を取り巻く環境の急速な変化にも対応する必要がありました。その整備は岡山市の教育関係者の長年にわたる願いであり、整備に向けて様々なアプローチをしてまいりました。そして、令和4年

夏、各方面の理解を得て、同年9月市議会における市長からの新施設整備の意思表明、令和5年3月には、整備に向けた基本方針の策定、本年6月には基本設計の公表をしたところです。

基本方針では、3つのコンセプトを実現するため、3階建て（延床面積3,328㎡）の施設内に、さまざまな居室やスペースを設けることとしています。

まず、教職員が資質・能力を「高める」場所として、「大研修室」や「中研修室」とともに、「ホワイエ」などのコミュニケーションスペースを整備することとしています。また、「情報教育演習室（未来の教室）」では、ICT研修はもちろん、プログラミングやSTEAM教育などの研究も進め、教職員の最新の教育への対応力向上を図ります。

また、新しい学びを「創る」場所として、「オープンイノベーションルーム」や「大学連携スペース兼ディスカッションルーム」を整備し、授業やさまざまな教育課題について、大学や企業と連携した協働研究を進め、研究成果を学校や教職員の実践に結びつけ、研究と研修の一体化を図ります。

さらに、保護者の悩みや相談に「応える」場所として、「就学相談ルーム」を整備し、就学等における保護者の悩みや相談に、常時対応できる体制を整えていきます。

「岡山市教育センター（仮称）」は、「岡山市教育大綱」及び「岡山市教育振興基本計画」の理念実現を図るための施設です。岡山市の子どもたちが、選択と挑戦を繰り返しながら、個性を磨き、自立していくことができるよう、大人が知恵を出し合い、実践につなげていく場所とすることが、整備に当たっての願いです。教育関係者はもちろん、企業や保護者を含む市民など、「全ての大人の主体的な関わりをお願いしたい」と強く思っています。



教育課題等研修 自然体験研修講座

岡山市立少年自然の家を会場に7月31日（水）に開催しました。本研修は、自然体験を通して、他者と協調しながら、自己のストレスの解消法を見つけ、明日への活力につなげることをねらいとした研修です。研修は希望研修としていますが、中堅教諭・中堅養護教諭・中堅栄養教諭研修講座の選択講座でもあるため、様々な校種や立場の先生23名（小学校16名、中学校7名）が受講しました。

まず、徳永所長より、少年自然の家の概要と人や自然などの関わりから生まれる豊かな心について学びました。

次に、「谷川体験」「ネイチャーワーク」「クラフト（焼き板）」から受講者がそれぞれ事前に選択した活動を行いました。



【谷川体験】

「谷川体験」では、谷川を歩きながら、水に触れ、自然がつくった滑り台を滑りました。水の冷たさ、小川の流れる音、川底や岩の感触等、自然を全身で感じることができました。

「ネイチャーワーク」では、自然の家の職員の方の案内で、山の中を散策しました。活動の中で、『フィールドビンゴ』と『カモフラージュ』というネイチャーゲームも体験しました。自然をじっくり観察することで、多くの感動を体験しました。



【ネイチャーワーク】

「クラフト（焼き板）」では、板を自分で焼いて磨き、どんぐりやまつぼっくり等の自然物を貼り付けて、置物作りをしました。作業中に同じグループの先生たちとコミュニケーションを取りながら、制作に取り組み、夢中になり、自分だけの作品を完成させました。

本研修を通して、自身のリフレッシュをすることができたり、自然体験施設と学校との関わり方について考えたりすることができました。



【クラフト（焼き板）】

＜受講者の感想＞

- ◇体で自然を体験するという言葉が印象的で、五感を使って楽しむことでいろいろな自然のよさに気づくことができることを知った。ストレス解消の方法としてだけでなく、自然に親しむことの大切さを感じることができた。
- ◇自然の中で、五感を働かせて過ごしてみると、好奇心が刺激され、自然だけでなく周りの人の存在やつながりをより強く意識し、心も癒やされた。そうやって自分自身が力いっぱい活動を楽しみ、感じることで、子どもたちにもよりリアルに伝えられることがたくさんあるなと実感できた。少年自然の家でしか体験できない谷川体験を久しぶりにさせていただき、リフレッシュすることができた。
- ◇子どもの立場で仲間と一緒に自然体験をしてみると、普段は感じることでできない感覚を味わうことができた。自分が山の学校の引率をするときに、どのようなことに気を付けたらよいか、子どもにどのような声掛けをするべきかについても学ぶことができた。